

JIA長野県クラブ 44

社団法人 日本建築家協会

2000. 9. 1



◀▼あすなる建築見学会(軽井沢南ヶ丘倶楽部)



▼第1回目の情報特別委員会



変わりつつある建築家の周辺

副会長 関 邦 則

支部の幹事として役員会に出席しています。地域にいるとわかりにくい状況についてお知らせします。

最初にJIAの公益法人化という状況があります。そもそも私たちの団体は専門の建築設計者が建築家の資質向上及びその業務の進歩改善を図ることによって公共の福祉の増進に寄与することを目指してきました。いわゆる同業者の集団であり、社会から見ると閉鎖的な団体としかみえません。これからの私たちの団体はもっと公益性のある活動をしていかなければならないという認識から公益法人の道を選んだのです。定款上では本部理事の中に正会員以外の外部者を入れるということになりました。団体の存在意義自体がかなり大きな変換をしたわけですが、これまでの活動の中にあつた公益性を維持強化していくということになるのだと思います。

村屋会長は建築家資格・教育制度を2年後に実現したいとしました。近畿支部が先行しているのは周知のことですが、国際的に通用するレベルで全国的な制度として整備されようとしているのです。これは自分自身の問題ですから、本部の議論と並行して自分たちなりにしっかり考えていかなければならないと思います。

継続教育(CPD)は建築家資格の一環ですが、制度制定に先立って10月の支部アーキテツガーデン及び内子大会においてテストランが行われようとしています。建築家としての資質を維持するために日頃から自己研鑽しなければ社会的信頼を得られないという発想です。所定の単位を終了しないと建築家資格を剥奪されてしまいます。詳細はこれから示されます。

昨年のことになりますが設計者選定の新方式も提示されています。JIAはこれまでプロポーザル方式を提案してきた経緯もあるのですが、さらに改善を迫及する立場から資質評価(QBS)方式が提案されるに至っています。設計者に対して面接を重ねて選定するという方法です。支部でも情報化推進特別委員会が設置されました。ホームページの開設やメール環境などが整備されます。

住宅品質確保促進法のスタートに際して弁護士会の要請により紛争処理委員としてクラブから松下・出澤・高橋・羽生田・三浦・関が選任されました。専門家として社会の信頼を得られるようにしなければなりません。

こうした重要度の高い事柄に目を留めて自らの立場を再認識し社会と向きあっていただきたいと思います。



運営の柱

総務委員長 関 邦 則

引き続き総務委員長を拝命いたしました。

最近クラブの基盤面における整備はだいぶ落ち着いてきています。またお蔭様で会員数も減じていないので財政面でも問題はありません。したがって総務委員会の活動は比較的小となさくなっているのが実状です。

しかし、先のJIA本部通常総会において定款が変わったり建築家継続教育が試行されようとしたりするなど組織として新しい体質への移行の胎動も感じられます。また建築・都市計画関係の法律や制度の改正も私たちの職能に影響を及ぼしてくるようと思います。つまり社会が建築なり建築家との新たな関係を求めているということです。和気あいあいの雰囲気は私たちのクラブの大切な財産ですが、そうした状況の上に立ってなお建築家に対して社会に向けた大きな期待がかけられてくることになりそうだとこのことをここではっきりと認識しておかなければなりません。

総務委員会は小人数ではありますが、新しい課題の予感の中でクラブの運営の柱になる委員会でありたいと思います。会員の皆様からの提言もいただければありがたいと思います。



世代・業種を超えた交流を!!

交流委員長 高 橋 重 徳

我々を取り巻く環境は、新しい時代への根本的構造変化の必要性を伴いながら、さらに経済的にも益々厳しい状況となって、今までにない新しい対応を求められているのではないのでしょうか。

こうした時こそ、仲間（同志）が理解し、協力し合うことがより重要になり、大切になっていると思います。

そこで、本年度の交流委員会は、今まで築いてきた会員相互の信頼関係を軸として、さらなるコミュニケーションの充実をはかることを目指してまいります。

まず、正会員・賛助会員をとわず先輩の方々にも是非参加して頂き、世代・業種を超えた交流をより積極的に行い、知識、経験、知恵を頂きながら、学習や情報交流のできるための「場づくり」に努めてまいります。

また、従来のコミュニケーションファイルを 情報化社会に対応するため、新しい形づくりの研究と改定を行いたいと考えています。

会員の皆さんの積極的な参加を頂き、お互いの親睦を深めながら知恵によって楽しく進めてまいります。



『自己管理』できる職能集団

会員委員長 久 保 隆 夫

残暑お見舞い申し上げます。

新年度となり、既に数カ月が経過。皆様ご周知のこと、JIA長野県クラブも松下新体制へと移行し、順調に歩み始めました。長年にわたり成長期の当クラブにおいて、数々の事業をことのほか慎重且つ説得力をもって遂行された出澤旧会長には本当にご苦労様でした。心より敬意を申し上げます。

ことほど左様に、昨年度まで会員委員長を務められた松下さんが当クラブの代表に就任された矢先、後任として私にその重責が巡って参り、不安感が募るばかりです。従前より会員委員会に所属いたし、もともとは下からサポートすることを得意とする自分ですが会員の皆様の強力なご支援、ご協力をいただき委員全員参加によって運営を図って参りたいと思っております。

「IT革命時代」を迎え情報の多様化、高速化は私達の想像を遙かに越えておりますが、こうした効率的情報化社会のなかで益々必要とされるのは、『自己管理』の能力と言われます。委員会では自己管理能力を備えた職能集団であるためお互いに刺激、研鑽しあえる事業、環境づくりを目指したいと考えます。



新しい時代のまちづくりを踏まえた事業展開へ

事業委員長 上 村 保 弘

21世紀を目前に控えJIAは、文化講演会の内容について、若干軌道修正を行う必要があるのではないかと考えています。既に施行された、中心市街地整備改善活性化法、NPO法、PFI推進法などが徐々にではありますが、確実に浸透し始めています。これらの法律に加え今年施行された地方分権一括法によって、さらにまちづくりのあり方が変わろうとしています。従来の行政お任せのまちづくりから、新しい概念としてのTMO（まちづくり会社）の登場は、自分たちの手によるまちづくりへと「官民協調の時代」に入ったことを意味しています。

このような時代にあって、JIAのメンバーも具体的にどのようにまちづくりへ関わっていくのかという研究は私たちにとって急務の課題であると言えます。

学生を対象とした学生卒業設計コンクールは昨年度から専門学校もその対象としましたが、将来的には他県との協調が可能な、より充実したコンクールにしていきたいと思っております。終わりに本年度から事業委員会の業務となった「あすなる建築展」は、さらなる充実を目指し、建築単体にとどまらずまちづくりという観点からも積極的に取り組んでいきたいと考えています。



会報の負うべき役割とは

広報委員長 依田 政司

前委員長・関邦則氏の尽力により、長野県クラブの会報誌は質量ともに高い評価を得ています。

後任の身としては、その重責に耐えかねている処ですがクラブの発展の為に継承、充実させていきたいと思っています。会報の負うべき役割は概ね次の三点であると思います。第一は、会員の意見発表と交換の場である事。第二は、当クラブの存在と意志を地域社会に表明するための各事業活動のオフィシャルドキュメントである事。そして第三には、会員や地域社会に向けたインフォメーションソースである事。以上です。

広報委員会で協議したところ、第二、第三の役割は現在充分果たしているという結論でした。更に第三の役割については、本年度より情報特別委員会が出来、近い将来当クラブのホームページがアップすると、尚一層の充実が期待されます。第一の役割については、所謂サイレントマジョリティ（物言わぬ多数派）である会員に、如何にしてクラブ活動に参加してもらうか。クラブの活性化と発展の為に、会報の編集の際に試行錯誤しながら考えていきたいと思っています。終わりに原稿の依頼については、今後ともご協力の程、宜しく申し上げます。



県下4地域で現状把握

まちづくり委員長 川上 恵一

ちまたではまちづくりという言葉が日頃どこでも聞かれるようになりました。その活動もさまざまな分野で成果を納めています。JIA鎌倉大会'99でも「JIAまちづくり憲章」が採択され、建築家としての参加・連携・啓発・実践を理念として、いよいよ実行に移さなくては「明日はない」という現状であります。私達がまちづくりを考えたとき、職能人としての建築家よりもまず個人として、まちや人にどう関わっていくかでしょう。そのとき、アクセクして学んだ設計活動やその成果である建築を通して発信すればよいのであって、それ以外は他の者に任せて交流の中から学ぶのも良いのではないかと思います。昔より悪くなっている環境や人の心、本当の生活を見失っている今、差し迫った問題でもあります。

私達もあくまで建築を通して内向けの研修、外向けの情報発信をスタートの活動としようと考えています。まず県下四地域のまちづくりの現状を把握し、記録を残す作業を通してお互いを認知することから始めようと思います。今年十六回目になる松本の「まちづくりフォーラム」にも、当会としての活動をパネル展示して報告することを計画しています。



情報環境整備の時代

情報特別委員長 関 邦則

時代に対応した情報特別委員会が新設されました。委員長には似つかわしくない者ですが、皆さんの理解と協力をいただいて取り組んでみたいと思っています。

実は事務局のインターネット環境整備は前年度の内に着手しておりました。会報の原稿の取り扱いを少し楽にしようと思ってトレーニングを始めたのでした。総会で委員会設置の承認をいただいた後早速正会員のインターネット環境のアンケート調査をさせていただきました。37名の方から回答をいただきました。

これを基にしてメール環境の活用やクラブとしてのホームページの開設について早急に研究していきたいと考えています。会員間のコミュニケーションをより活性化することと対外的にJIAをアピールすることが合わせてできればよいと思っています。「IT」という声が社会現象化した今日、なんとか情報環境整備を進めていきたいと思えます。まだ環境が整っていない方もこの機会に検討されてはいかがでしょうか。わからないことは事務局か委員にお問合せ下さい。

*事務局に正会員メールアドレスリストを常備しています。必要な方はお申し出下さい。



建築家の情熱感じる

賛助会長 坂田 守夫

連日暑さが続く毎日ですが、皆様方お元気でお過ごしのことと存じます。JIA長野県クラブも、去年は待望の建築家カタログ「愛と情熱の家づくり」を完成することが出来、我々賛助会員も大変な喜びを感じさせていただきました。と共に少しはご協力出来たかな？という思いです。先生方の情熱がカタログに乗り移り、これから家を建てたいと願う施主の方々に深く浸透していったら大変すばらしい事と思います。先日、私の身内から相談をうけ「子供に家を建てたいんだがどうしたら良いか全然わからない」と言われました。子供はハウジングセンターを廻って歩き、軽い気持ちで住所、氏名、電話等書いてきたら、その夜より何件もの会社から電話攻勢がすごく大変だったと申しました。営業力という点では流石だと思いました。

今回、又賛助会長を仰せつかりましたが、先生方と賛助会の皆様方のパイプ役を務める事が出来たらと存じます。賛助会員全員がJIAに入会して良かったと言える会を目指して頑張る所存です。いろいろな会合がありますが、賛助会の皆様方進んで出席して頂き、自社のPRに努めて下さい。

今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお申し上げます。

クラブインサイド

第3回正副会長会 松下重雄

6月19日、ルートイン松本インターで開催。委員会構成、年間スケジュール再検討。「愛と情熱の家づくり」在庫、残金の扱いなどを討議。幹事会運営会長方針検討。紛争処理委員の3会協議会対応を話し合う。

第3回幹事会 小野澤秀世

6月27日、松本市(株)シマコーさんの本社会議室をお借りして開催。松下会長より「本部・支部の総会も無事終了したので、当クラブも事業活動を開始したいのでよろしく」との挨拶。クラブ報告、本部・支部関連諸会議出席報告。議事では、委員会構成(案)が再検討され承認された。その他議題を活発に討議した。

第1回あすなる建築見学会 新井優

7月14～15日に軽井沢南ヶ丘倶楽部であすなる建築見学会が行われ多数参加。中村昌生先生設計の「利休幻の茶室 大庵」民家を移築した三五荘など見学し、貴重な勉強の場となった。

第1回情報特別委員会 関邦則

7月19日、ルートイン松本インターで開催。アンケート結果のメールアドレスリストを事務局との連絡や委員会案内などに活用する。ホームページは活動紹介と会員紹介としたい。ホームページ作成講習会も企画する。

第1回広報委員会 依田政司

7月27日、おぎのや長野店にて開催。会報の位置づけと編集の基本方針、及び役割分担について協議した。

当日の出席者は3名と少なかったため、内容を幹事会に諮りながら、再度委員会を開く事を確認した。

第4回幹事会・納涼会 赤羽吉人

7月28日、松本市のザ・グランドティアラで開催。「愛と情熱の家づくり」第二集出版の検討を情報特別委員会に付託。会報編集方針、事務所会員加入増加策等についても討議。引続き納涼会。雨のため屋上ビアガーデンは断念したが、高橋交流委員長の軽妙な司会ぶりに誘発され大いに盛り上がり、楽しい集いとなった。

クラブアウトサイド

第5回全国地域会合同会議 松下重雄

5月30、31日開催。前日は分科会での討議。翌日の本会議では、ネットワーク強化、地域会の役割と位置づけ、活動の統一性等が決議された。地域会はJIAの末端ではなく“最先端”であるという認識が示された。

2000年度本部通常総会 松下重雄

5月31日開催。焦点となった継続職能研修制度の試行実施と公益法人化の為の定款改正の二つの大きな問題が承認され、社会により開かれた団体となる必要が生じた。

第3回支部保存問題委員会 依田政司

6月2日開催。本年度より篠田義男氏が委員長となり、タスク別に担当者を決め、活動の状況や内容について委員会で協議することにした。次号から順次報告する予定。

第1回地域サミット 松下重雄

6月14日横浜にて開催。学生卒業設計コンクールを中心に討議。群馬、新潟、茨城等との合同開催の準備段階が来たことで共通認識。バイキング料理で大いに懇親。

第3回支部役員会 関邦則

7月5日開催。アーキテックガーデンでの継続教育レストランに関し協議。CPD実行委員会と情報化推進特別委員会承認。苦情処理対応委員会も立上げ準備中。

第4回支部会員委員会 久保田三代

7月12日開催。会員集会のテーマについて、公益法人・継続教育研修など中田専務理事を講師に勉強会を行い、11月頃開催したい方針を確認。終了後は近くの食堂に場所を変え、ISO・品確法など会員の抱える問題について議論。

第4回支部総務委員会 久保隆夫

7月19日開催。各役員会の報告に続き財務問題、役員規程の改訂などについて協議。前題は、退会者などによる減収対策として各委員会にて増収または節約を分担する具体策を検討していく。後題については、公益法人化を踏まえた定款改正ほか各委員会W・Gの性格、呼称改訂について協議。継続職能研修(CPD)について本年度はアーキテックガーデンなどにて試行していく方針。

— 新入会員紹介 —

事務所会員 (株)林魏建築設計事務所 (長野市)
正会員 林隆 林建築設計室 (松本市)



JIA長野県クラブ

編集人 依田政司
発行人 松下重雄
発行所 JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科
426-1
長野県建築士会館内
TEL 026(232)3897
FAX 026(232)5303

作成 新建新聞社